

「ライドシェア新法」提起

川邊氏(LINE会長)ら規制改革会議WGメンバー

政府の規制改革推進会議の安全対策として、乗務時の「地域産業活性化ワーキンググループ」(WG)座長川邊氏(LINE会長)ら規制改革会議WGメンバーが、ライドシェア事業を位置づける法律の制定を提起した。全国ハイヤー・タクシー連合会の川鍋一朗会長(日本交通取締役)も、一種免許の取得緩和などを前に、都市圏を念頭に「1年後には乗務員が充足する」とアピールした。川邊氏は「諸外国のいいとこ取りの新法を作ったらいい」として、ライドシェア



振るはるは福岡市の高島市長(右)と、川邊氏(LINE会長)らWGメンバーのオンライン会議の様子。左から川鍋一朗氏、川邊氏、高島市長。

全タク連 「1年で乗務員充足」

「地域産業活性化ワーキンググループ」(WG)座長川邊氏(LINE会長)ら規制改革会議WGメンバーが、ライドシェア事業を位置づける法律の制定を提起した。全国ハイヤー・タクシー連合会の川鍋一朗会長(日本交通取締役)も、一種免許の取得緩和などを前に、都市圏を念頭に「1年後には乗務員が充足する」とアピールした。川邊氏は「諸外国のいいとこ取りの新法を作ったらいい」として、ライドシェア

「安全対策として、乗務時の「地域産業活性化ワーキンググループ」(WG)座長川邊氏(LINE会長)ら規制改革会議WGメンバーが、ライドシェア事業を位置づける法律の制定を提起した。全国ハイヤー・タクシー連合会の川鍋一朗会長(日本交通取締役)も、一種免許の取得緩和などを前に、都市圏を念頭に「1年後には乗務員が充足する」とアピールした。川邊氏は「諸外国のいいとこ取りの新法を作ったらいい」として、ライドシェア

「ライドシェア新法」提起の背景には、都市圏を中心にライドシェアの需要が増えていることに加え、外国人観光客の増加による観光需要の拡大も影響している。また、ライドシェア事業者の増加による乗務員の不足も懸念されている。川邊氏は「1年で乗務員が充足する」という目標を掲げ、新法による乗務員確保の重要性を強調している。

ライドシェア問題

過疎地と外国人客の移動手段確保が急務

水嶋国交審議官インタビュー



水嶋国交審議官インタビューの様子。右が水嶋氏、左が記者。

国土交通省の水嶋国交審議官「交通担当、日運輸省乗務員(タクシードライバー)は16日、自家用車ライドシェアの競争問題で本紙のインタビューに応じ、急務の課題として、過疎地と外国人観光客の移動手段の確保を挙げた。都市部でのライドシェアに比べ、「新しいビジネスモデルを求め、ビジネスチャンスを拡大していく」という議論になる」とし、「過疎地、外国人客の輸送と混同して一緒に検討するのは適切ではない」と強調した。

水嶋氏は「まず、タクシー」ところ、手が回らないと供給力を徹底的に回復、これには、自家用車ライドシェアの競争問題で本紙のインタビューに応じ、急務の課題として、過疎地と外国人観光客の移動手段の確保を挙げた。都市部でのライドシェアに比べ、「新しいビジネスモデルを求め、ビジネスチャンスを拡大していく」という議論になる」とし、「過疎地、外国人客の輸送と混同して一緒に検討するのは適切ではない」と強調した。

「ライドシェア新法」提起の背景には、都市圏を中心にライドシェアの需要が増えていることに加え、外国人観光客の増加による観光需要の拡大も影響している。また、ライドシェア事業者の増加による乗務員の不足も懸念されている。川邊氏は「1年で乗務員が充足する」という目標を掲げ、新法による乗務員確保の重要性を強調している。

面がちょうど違つのかなと思つた。「現実には困つている過疎地の人々の生活交通の確保といった、喫緊の課題を迅速に解決することをまず考えた上で、新しいビジネスモデルの提案に対しては、どういった判断をしていくか、多面的に議論していく必要がある」と検討の手順を示した。安全性の担保のほか、労働保護の観点も重視。「ライドシェアには、ギグワーカー(プラットフォーム事業者)から仕事を請け負い、個人事業主として働く人の問題もある。今、社会全体で質を上げていくことが重要だ」と、ギグワーカーの観点から、おかしな競争にならないよう、単に新しいビジネスモデルと既存の業界を競争させればよいということではないことを強調した。

「法制度の見直しなど提案はいろいろあるけど、ただ、やはり、何がこの国の、社会の利益になるのかをトータルでちゃんと考えないといけない。国交省としては、利用者、地域社会、事業者などさまざまなステークホルダー(利害関係人)に納得してもらわないと進められない。決して事業者のことだけを考えているわけではない」と力を込めた。